

Sun Java System Instant Messaging リリースノート

バージョン 7 2005Q1

Part No. 819-1483

このリリースノートには、Sun Java™ System Instant Messaging 7 2005Q1 のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。ここでは、新機能および拡張機能、既知の問題点や制限などを説明します。Instant Messaging 7 2005Q1 をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

Instant Messaging を正しく配備するために、<http://sunsolve.sun.com> からこの製品のこのバージョンの最新パッチをダウンロードすることをお勧めします。パッチで修正済みのバグの一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。

パッチ番号は、次のとおりです。

- Solaris (SPARC® Platform Edition): 118786-** (すべてのバージョン) および 118789
- Solaris (x86 Platform Edition): 118787 および 118790
- Linux: 118788 および 118791

このリリースノートの最新バージョンは、次の Sun Java™ System マニュアル Web サイトで参照できます。<http://docs.sun.com/app/secure/doc/819-1483?l=ja>。ソフトウェアのインストールおよび設定前、さらにその後もこの Web サイトを定期的に参照して、最新のリリースノートや製品マニュアルを確認してください。このリリースノートは、次の節で構成されています。

- [Instant Messaging 7 2005Q1 の概要](#)
- [ハードウェアおよびソフトウェアの要件](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要情報](#)
- [既知の問題点と制限事項](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [その他の情報](#)

このリリースノートでは、サードパーティの URL を参照して、追加の関連情報を提供しています。

注 Sun は、このリリースノートに記載されているサードパーティの Web サイトの利用可能性について責任を負いません。Sun は、サードパーティのサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の素材について保証せず、いかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、製品、またはサービスを利用または信用したことに伴って発生した、あるいは発生したとされるいかなる損害や損失についても、Sun は一切責任を負いません。

Instant Messaging 7 2005Q1 の概要

Sun Java™ System Instant Messaging を使用すると、セキュリティが確保され、機能性の高いメッセージ交換をリアルタイムに行うことができるため、コミュニティのユーザーが迅速かつ安全に通信および共同作業を行うことができます。Sun Java™ System Instant Messaging は、メッセージング機能に、会議室、アラート、ニュース、調査、およびファイル転送機能を一体化することで、共同作業を行う優れた環境を提供します。このソフトウェアは、LDAP、Sun Java™ System Identity Server、または Sun Java™ System Portal Server で管理された既存のコミュニティを活用します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [このリリースの新機能](#)
- [ハードウェアおよびソフトウェアの要件](#)

このリリースの新機能

ここでは、次の内容について説明します。

- [インストール](#)
- [新機能](#)

インストール

『Instant Messaging インストールガイド』は廃止されました。初めて Instant Messaging 7 2005Q1 をインストールする場合は、『Sun Java™ System Enterprise System インストールガイド』のインストール手順を参照してください。Instant Messaging の旧リリースからアップグレードする場合は、『Sun Java™ System Upgrade and Migration Guide』の手順を参照してください。

新機能

ここでは、このリリースで Instant Messaging に追加された次の新機能について説明します。

- 更新および改良された Instant Messaging のクライアント
- IETF eXtensible Messaging および Presence Protocol (XMPP)
- 拡張された監視機能
- 再設計された Calendar Server との統合をサポート
- クライアント用の障害追跡診断
- ニュースチャネルおよび会議室のマルチドメイン機能
- 新規ユーザー登録
- 簡略化された Sun Java™ System Access Manager スキーマ

更新および改良された Instant Messaging のクライアント

新しいアイコン、最新の機能、および新しい XMPP 機能 (複数の Instant Messaging セッション、Presence 機能、登録承認、名簿管理およびロギング機能などを備えている)。

IETF eXtensible Messaging および Presence Protocol (XMPP)

Instant Messaging では、XMPP を使用し、オープンソースゲートウェイを介してパブリックネットワークと相互運用します。ユーザーは、XMPP (GAIM や Exodus など) をサポートするクライアントのすべてのサービスに関する連絡先を集約することができます。さらに、XMPP がサポートされることにより、ほかのサードパーティ製アプリケーションの統合および既存機能の拡張が容易になります。

拡張された監視機能

ウォッチドッグ機能では、Instant Messaging が起動または停止しているかどうかを監視し、停止している場合は再起動します。Java Enterprise Service 監視フレームワークでは、認証の時間、メッセージ配信、およびサービスを通じて送信されたインスタントメッセージ数に基づいたパフォーマンスメトリックスを提供します。

再設計された Calendar Server との統合をサポート

カレンダー通知をインスタントメッセージとしてリレーする方法が、旧バージョンから変更されました。新機能は次のとおりです。

- Calendar サーバーエージェントを起動および停止する imadmin コマンドのアップデート
- Calendar エージェントを有効および可能にする新しいブール型の構成パラメータ
- 新しい設定の移行プロセス

クライアント用の障害追跡診断

「バージョン情報」ダイアログボックスには、製品の著作権情報が記載されています。また、「詳細」タブには、システム、クライアント、サーバー、およびセッション情報が示され、問題が発生した場合には、エンドユーザーが電子メールにコピー&ペーストして、管理者またはサポートセンターへ送信することができます。

ニュースチャネルおよび会議室のマルチドメイン機能

ニュースチャネルおよび会議室では、マルチドメインからのユーザーもサポートされます。

新規ユーザー登録

Instant Messenger をカスタマイズして、ユーザーがユーザー自身をディレクトリに登録できるようになりました。

簡略化された Sun Java™ System Access Manager スキーマ

属性の sunPresenceDefaultAccess、sunPresenceEntityDefaultAccess、sunPresenceAccessDenied、sunPresenceEntityAccessDenied、sunPresenceAccessPermitted、および sunPresenceEntityAccessPermitted は廃止されています。これらの属性は、属性 sunPresencePrivacy および sunPresenceUserPrivacy に置き換えられています。廃止された属性はまだスキーマ内にありますが、Sun Java™ System Access Manager コンソールには表示されず、使用されていません。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

この節では、Instant Messaging ソフトウェアのインストール要件について説明します。インストールする前に、最小限のハードウェア要件およびオペレーティングシステム要件を満たしていることを確認してください。サーバーとクライアントの両方で、JRE 1.4 がサポートされています。また、インストールする前に、すべての製品パッチも確認してください。

Sun Java™ System Instant Messaging の必須パッチの最新リストについては、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスし、「パッチ」または「パッチ・サポート・ポータル」のいずれかを選択します。Sun Java™ System Instant Messaging のリンクをたどります。システムパッチ要件が変更されたり、Java Enterprise System コンポーネント用のパッチが利用可能になると、SunSolve からアップデートが入手可能になります。最初は推奨パッチクラスタの形式で入手します。

Instant Messaging ソフトウェアのこのリリースに必要なハードウェアとソフトウェアは、次のとおりです。

サーバーのオペレーティングシステム要件

このリリースの Sun Java System Instant Messaging では、次のプラットフォームがサポートされています。

- Solaris™ 8 (5.8) Operating System (SPARC® Platform Edition)
- Solaris™ 9 (5.9) Operating System (SPARC® Platform Edition)
- Solaris™ 9 (5.9) Operating System (x86 Platform Edition)
- Solaris™ 9 (5.9) Operating System (Opteron Platform Edition)
- Solaris™ 10 Operating System (SPARC® Platform Edition)
- Solaris™ 10 x86 Operating System (x86 Platform Edition)
- Solaris™ 10 Operating System (Opteron Platform Edition)
- Red Hat Enterprise Linux AS 2.1 および AS 3.0.

Solaris 用の推奨パッチリストについては、次の場所を参照してください。

<http://sunsolve.sun.com>

サーバーのソフトウェア要件

このバージョンの Instant Messaging は、次のバージョンのほかのサーバーソフトウェアと互換性があります。

- Sun Java™ System Access Manager 6 2005Q1
- Sun Java™ System Application Server Enterprise Edition 8 2005Q1
- Sun Java™ System Calendar Server 6 2005Q1
- Sun Java™ System Directory Server 5 2005Q1
- Sun Java™ System Messaging Server 6 2005Q1
- Sun Java™ System Portal Server 6 2005Q1
- Sun Java™ System Web Server 6.1 2005Q1 SP4

サーバーのハードウェア要件

Sun Java System Instant Messaging インストール時の最小限のハードウェア要件は、次のとおりです。

- ソフトウェア用として約 300M バイトの空きディスク領域。
- ユーザーごとに約 5K バイトのディスク領域。
- 256M バイト以上の RAM。必要な RAM の容量は、並行して実行されるクライアント接続の数およびサーバーとマルチプレクサを同一のホストに導入するかどうかに応じて変化します。

クライアントのオペレーティングシステム要件

このリリースでは、次のクライアントプラットフォームがサポートされます。

- Solaris 8、9、および 10
- Microsoft Windows 98 以降 (ME、NT (SP 6a)、2000、XP)
- Mac OS X 10.1 以降
- Red Hat Linux 7.2 以降

クライアントのソフトウェア要件

Microsoft Windows 上では、次のブラウザの Java Plug-in を使用して Instant Messenger を実行できません。

- Netscape 4.7x、7 以降
- Mozilla 1.2 以降
- Internet Explorer 5.0 以降

クライアントマシンにバージョン 1.4 以上の Java がインストールされている場合、そのままの状態でも Java Plug-in および Java Web Start を使用できます。Netscape Navigator v7 および最近のバージョンの Mozilla ブラウザには、バージョン 1.4 以上の Java が含まれています。Internet Explorer には最新版の Java は含まれていません。Java 1.4 をインストールしているクライアントで問題が発生した場合は、5.0 にアップグレードしてください。JDK 5.0 には、Sun Java™ System Instant Messaging が含まれています。

クライアントマシンにバージョン 1.4 以上の Java がインストールされていない場合、Java Web Start をインストールする必要があります。Java v1.4 は、次の場所からダウンロードし、インストールすることができます。

<http://java.sun.com/j2se>

Java Web Start は、次の場所からダウンロードし、インストールすることができます。

<http://www.java.sun.com/products/javawebstart>

HTML リンクは、Instant Messenger を通してのやりとりが可能であり、またクリックすることで Instant Messenger から起動できます。リンクがアクティブになると、Instant Messenger によってブラウザが起動されます。表 2 に、サポートされるオペレーティングシステムとブラウザの組み合わせを示します。

表 1 サポートされるクライアントのオペレーティングシステムとブラウザの組み合わせ

オペレーティングシステム	ブラウザ
Solaris	Netscape Communicator 4.7x 以降
Red Hat Linux 7.x	Netscape 4.7
Red Hat Linux 8.0 以降	Mozilla 1.2 以降
Microsoft Windows 98/ME/NT/2000/XP	制限なし
Mac OS X	制限なし

クライアントのハードウェア要件

Instant Messenger は、大半のプラットフォーム上で 20 ~ 40M バイトのメモリを消費します。メモリ要件を見積もる際には、クライアントマシン上で使用するほかのアプリケーション (オペレーティングシステムを含む) の要件も考慮してください。Instant Messenger およびほかのアプリケーションを快適に使用するためには、ほとんどの場合、128M バイト以上の RAM を搭載することが推奨されています。メモリ消費量の多いオペレーティングシステムを使用する場合、より多くのメモリが必要になります。

このリリースで修正されたバグ

次の表に、アーリーアクセスリリース以降の Instant Messaging 7 2005Q1 で修正されたバグを示します。

表 2 Instant Messaging 7 2005Q1 で修正されたバグ

バグ ID	説明
6203662	これまで Linux では、Instant Messaging をインストールすると、デフォルトで監視エージェントが有効化されませんでした。現在は、この問題は発生しません。

重要情報

この節には、製品の主要マニュアルには含まれていない最新の情報が含まれています。ここでは、次の内容について説明します。

- [インストール上の注意](#)
- [互換性の問題](#)
- [Instant Messaging 7 2005Q1 のドキュメントアップデート](#)

インストール上の注意

- Instant Messaging の設定時に、Sun Java System Identity Server を使用してポリシーを保存するように選択すると、次のポリシーが作成されます。
 - Instant Messaging サービスおよび Presence サービスの管理権限
 - Instant Messaging の設定変更権限
 - Instant Messaging 会議室の管理権限

互換性の問題

7 2005Q1 Instant Messenger を使用するには、7 2005Q1 サーバーが必要です。サーバー間の通信では、リリース 6 2004Q2 と 7 2005Q1 間で互換性があります。サーバー設定ファイル (iim.conf) を変更したり、その他のサーバー関連データを移行したりする必要はありません。『Sun Java Enterprise System 2005Q1 Upgrade and Migration Guide』も参照してください。

Instant Messaging 7 2005Q1 のドキュメントアップデート

次のマニュアルは廃止されました。これらのマニュアルに記載されていた情報は、次の『Sun Java System Communications Services 6 2005Q1 配備計画ガイド』に組み込まれています。

- 『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 配備計画ガイド』
- 『Sun Java System Instant Messaging 6 2004Q2 配備計画ガイド』
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2004Q2 配備計画ガイド』
- 『Sun Java System Communications Services 6 2004Q2 企業向け配備計画ガイド』

また、『Sun Java System Instant Messaging 6 2004Q2 インストールガイド』も廃止されました。このマニュアルに記載されていた情報は、次のマニュアルに含まれています。

- 『Sun Java Enterprise System 2005Q1 インストールガイド』
- 『Sun Java Enterprise System 2005Q1 Upgrade and Migration Guide』
- 『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』

この節の後の部分では、マニュアルの記載の誤りと記載漏れについて説明します。

オンラインヘルプ

次の機能については、製品のオンラインヘルプまたはクイックレファレンスのいずれにも説明されていません。

「起動」画面

「起動」画面で Instant Messenger を起動します。Java Web Start を使用している場合は、画面の中央にある「起動」ボタンを押します。Java Plug-in (Microsoft Windows ユーザーのみ) を使用している場合は、画面の最上部にある「Java プラグインを利用する」ボタンを押します。「オンラインヘルプ」および「クイックレファレンス」ボタンを押すと、エンドユーザー製品のヘルプが表示されます。

「バージョン情報」ダイアログボックス

「バージョン情報」ダイアログボックスには、製品の著作権情報が記載されています。また、「詳細」タブには、システム、クライアント、サーバー、およびセッション情報が示され、問題が発生した場合には、エンドユーザーが電子メールにコピー&ペーストして、管理者またはサポートセンターへ送信することができます。

連絡先の承認管理

この機能を使用すると、「こちらのステータスを表示できるユーザー」ウィンドウを表示できます。ユーザーがリストから誰かを削除した場合でも、ほかのユーザーのリストにはまだ記載されたままになります。このコマンドを使用すると、これまでその連絡先一覧に名前が記載されていたほかのユーザーから、連絡先承認を取り消すことができます。これまでは、「設定」ウィンドウの「プライバシー」タブを使用してこの画面を表示していましたが、「ツール (T)」メニューから呼び出せるようになりました。

「連絡先を追加」画面

「連絡先を追加」ダイアログボックスと「ユーザーを検索」ダイアログボックスが、ユーザーの検索と追加用として1つのダイアログボックスに統合されました。

セッション ID および優先順位設定

「設定」ウィンドウの「詳細」タブの「現在のセッションの優先設定」(日本語環境ではバグ 6230696 でタイトルとして残っています)が廃止されました。代わりに、ステータスを変更する場合は、エンドユーザーがチェックボックスを選択して、優先順位を調整するようになっています(デフォルトで有効になっている)。チェックボックスをオンにすると、ユーザーは自動的に、セッション優先順位を「アイドル」、「不在」、「多忙」のステータスに下げることができます。

顔文字

(バグ ID: 6182662) 新しい顔文字の一部がオンラインヘルプに記載されていません。表 3 に、記載されていない顔文字と、その対応するキーボードショートカットを示します。

表 3 Instant Messenger 顔文字

名前	ショートカット文字
目覚まし時計	((O))
風船	88=
バースデーケーキ	~[
カレンダー	[#]
厄介	&]
ピエロ	:O)
花	@=
プレゼント	@[
ゴールドスター	(*)
ナイフ	-->>
救助	o=
カミナリ	¥¥¥
乾杯)-
マネー	\$\$
ビアマグ	@]
ミュージック	~~
怪しい	<O~
輝く太陽	=O=
電話	(~)a
バイオリン	~¥~

連絡先の承認管理のメニュー項目

「ツール (T)」、「連絡先の承認管理」を選択すると、「こちらのステータスを表示できるユーザー」ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「[「こちらのステータスを表示できるユーザー」ダイアログボックス](#)」を参照してください。

「こちらのステータスを表示できるユーザー」ダイアログボックス

(バグ ID: 6183638) このダイアログボックスには「ツール」、「連絡先承認の管理」を選択することでアクセスできます。このダイアログボックスでは、エンドユーザーは、自分が誰の連絡先一覧に記載されているか見ることができます。ただし、記載されている先のユーザーの連絡先一覧を見ることはできません。たとえば、ユーザー A がユーザー B の連絡先一覧にユーザー A を記載することを許可したが、ユーザー B を自分の連絡先一覧に記載しなかった場合、ユーザー B はユーザー A の「こちらのステータスを表示できるユーザー」ダイアログボックスに表示されます。Instant Messenger では、ユーザー B はユーザー A のステータスを表示できるユーザーとして参照されます。このダイアログボックスのオプションを使用すると、ユーザー A は、ユーザー B を自分の連絡先一覧に追加、またはユーザー B の連絡先一覧から自分を削除することができます。

▶ ステータスを表示できるユーザーを連絡先一覧に追加する

1. Instant Messenger で、「ツール」、「連絡先の承認管理」を選択します。
「こちらのステータスを表示できるユーザー」ダイアログボックスが表示されます。
2. リストから追加するこちらのステータスを表示できるユーザーの名前を選択し、「連絡先一覧に追加」をクリックします。
こちらのステータスを表示できるユーザーが、「承認保留中」のステータスで連絡先一覧に追加され、承認要求がこちらのステータスを表示できるユーザーに送信されます。

▶ こちらのステータスを表示できるユーザーの連絡先一覧から名前を削除する

1. Instant Messenger で、「ツール」、「連絡先の承認管理」を選択します。
「こちらのステータスを表示できるユーザー」ダイアログボックスが表示されます。
2. 連絡先一覧分から自分の名前を削除するこちらのステータスを表示できるユーザーの名前を選択し、「ユーザーアクセスを拒否」をクリックします。
こちらのステータスを表示できるユーザーの連絡先一覧から削除されました。

ユーザーステータス監視インジケータ

オンラインヘルプには、ユーザーのステータスを監視している場合、Instant Messenger では、連絡先一覧のそのユーザーの連絡先名にアスタリスク (*) が付加されると記載されています。一部のプラットフォームでは、アスタリスクではなく感嘆符 (!) が使用されます。

「新規ユーザー登録」ダイアログボックス

管理ガイドで説明されているように、Instant Messenger をカスタマイズして新規ユーザーを登録できるようにすると、ボタンが 1 つ、「ログイン」ダイアログボックスに追加されて、ユーザーが「新規ユーザー登録」ダイアログボックスにアクセスできるようになります。このダイアログボックスの使用方法は、オンラインヘルプには含まれていません。使用方法については、『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』に記載されています。

既知の問題点と制限事項

ここでは、Instant Messaging 7 2005Q1 のリリース時点で判明している重要な既知の問題について説明します。

パッチの更新は、頻繁に行われます。Sun Java System Instant Messaging のインストール時または使用時に問題が発生した場合は、ご購入先に問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認してください。また、Sun の Web サイトで入手可能なパッチを確認することもできます。

<http://sunsolve.sun.com>

表 4 に、既知の問題および制限の一覧を示します。

表 4 既知の問題および制限

ID	概要
4609599 *	マルチバイト文字でフォントのカスタマイズを行うためには、最初にテキストを入力して、次にそのテキストを強調表示してフォントのカスタマイズを適用する必要があります。
4632723	アイドル状態の検出機能は、Mac OS には実装されていません。 ユーザーが Instant Messenger セッションを操作せずに退室しても、その不在状態が自動的に検出されません。 回避方法 Mac OS ユーザーは、退室前にステータスを明示的に「不在」に設定する必要があります。
4806791	画像の埋め込まれたアラートが、正確に表示されません。 受信者が画像の埋め込まれたアラートを受信した場合、画像が中央に表示されず、添付のテキストのフォント情報が失われます。
4841572	カスタマイズされたステータスが削除できません。 回避方法 最終的には、最も使用頻度の低いステータスが削除されます。すぐにそのステータスを削除するには、新規のカスタマイズされたステータスを 5 つ追加します。一番古いステータスがなくなります。
4846542	MAC OS 上で Java Web Start クライアントから印刷しようとすると、Instant Messenger がハングアップします。 回避方法 メッセージをコピーし、ほかのアプリケーションに貼り付けてから、印刷を行ってください。

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
4852719 *	Mac OS 上でクライアントのドラッグ&ドロップ機能を使用するには、OS X 10.3 で入手可能な Java 1.4.2 Update 2 を使用する必要があります。
4852882	<p>Calendar サーバーのアラームタイプが、次のように、text/xml に設定された場合、Instant Messenger 「タスク期限のリマインダー」アラートウィンドウの「リマインダー」フィールドが空白になります。</p> <pre data-bbox="429 453 979 475">calddb.serveralarms.contenttype = "text/xml"</pre>
	<p>回避方法</p> <p>このフィールドを "text/calendar" に設定します。</p>
4858320	ある会議への適切な参加権限を持たないユーザーをその会議に招待した場合、ソフトウェアの動作がおかしくなります。そのユーザーは実際には招待を受け取っていないのに、そのユーザーが招待されたかのように表示されます。
4860906	<p>特定の gb18030 文字を使用すると、会議室 / ニュースが作成できません。</p> <p>会議とニュースの ACL ファイル名は、Instant Messenger から提供された名前を使って記述されるため、それらの名前にチベット文字またはアラビア文字が含まれていた場合、ACL の作成時に問題が発生します。</p>
4871150	<p>一部のロケールで Instant Messenger に印刷エラーが発生します。</p> <p>回避方法</p> <p>印刷するテキストを、印刷可能な別のアプリケーションにカット&ペーストします。</p>
4893304, 6190592 *	添付で送付したイメージファイルが、ファイル転送時に壊れることがあります。
4920432 *	新着メッセージを受信すると、Instant Messenger のスクロールバーが細かく揺れます。
4922347	チャットルーム内で読み取り専用ユーザーと完全な権限を持つユーザーとを区別する方法がありません。このため、あるユーザーが読み取り専用権限を持つユーザーにメッセージを送信する場合、混乱が生じる可能性があります。読み取り専用ユーザーは、メッセージを受け取れません。
4929247	モデレータがあるユーザーに対して Presence アクセスを拒否すると、そのユーザーはメッセージを送信できません。
4929295	<p>複数の IM ポリシーがユーザーに適用されている場合、ポリシー間で矛盾が生じる可能性があります。たとえば、「一般」と「会議室管理者」のポリシーが 1 人のユーザーに適用されている場合、このユーザーは会議室を管理できません。</p> <p>回避方法</p> <p>「会議室の管理権限」チェックボックスの選択を解除して、正会員のユーザーポリシーを編集します。こうすることにより、2 つのポリシーが矛盾しなくなります。</p>

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
4944558	<p>「アラート」ウィンドウの「Web 表示」タブに、Web ページが正しく表示されない場合があります。これは、Java HTML レンダリングの制限です。</p> <p>回避方法</p> <p>「Web 表示」タブの代わりに「メッセージ作成」タブを使用して URL を送信してください。</p>
4960933	<p>Microsoft Windows のタスクバーのメニューラベルが、マルチバイト文字を使用する一部のロケールでは正しく表示されません。メニュー機能への影響はありません。</p>
4978293	<p>zh_HK ロケールでは、Instant Messenger が英語で表示されます。現時点では zh_HK ロケール機能は使用できません。</p>
5004449, 5084745	<p>Linux では、configure ユーティリティを実行すると、画面に警告メッセージが表示される場合があります。通常、これらの警告メッセージは、次のテキストで始まります。</p> <pre>WARNING: Cannot parse rpm files by running "/bin/rpm -qp --queryformat</pre> <p>実際にエラーが発生したわけではないので、設定は期待どおりに機能します。</p>
5027934, 6217481	<p>NOTICE ログレベルは廃止されましたが、今でも Instant Messaging のデフォルトのログレベルとしてインストールされています。この問題を解決するために、サーバーでは、NOTICE が INFO として処理され、通常、INFO 用に記録されていたすべての情報も記録されます。</p>
5032061 *	<p>Solaris および Linux 上では、.jpg ファイルなど、通常は Web ブラウザで表示される Instant Messaging のメッセージの添付ファイルを開くことができません。Web ブラウザへのパスが正しく設定されていません。</p>
5042884	<p>エンドユーザーが検索結果でアーカイブしたデータを閲覧できてしまいます。これはアーカイブのプロバイダに問題があります。</p>
5048455 *	<p>最初に会議室またはニュースチャンネルを選択しなくても、ユーザーが会議室またはニュースチャンネルへのアクセス権の設定ができてしまいます。これは誤解を招く恐れがあります。</p>
5050973	<p>ニュースメッセージのプロパティが、ニュースメッセージと一緒に送信されません。その結果、次のクライアント機能が影響を受ける可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 件名がニュースメッセージと一緒に表示されません。 • ニュースメッセージで改行ができないため、全体が判読不能になっています。 • ニュースメッセージのフォーマットが失われる可能性があります。 • 添付ファイルを送信できません。 • 画像を送信できません。

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
5051299	サーバー間の通信で、エンドユーザーに対してニュースチャンネルのアクセス権が機能しません。たとえば、アクセス権が NONE に設定されているユーザーが READ にアクセスすることができます。
5051369	サーバー間の通信で、別のサーバーでニュースチャンネルに登録しているエンドユーザーが、ニュースチャンネルのメッセージ作成者とチャットできません。
5051371	サーバー間の通信で、 NONE 、 READ 、および WRITE などのエンドユーザーのアクセス権が、会議室で正しく機能しません。
5065241	Instant Messenger がサーバーに接続されていないのに、ステータスを変更するオプションが表示されます。接続されていない状態でステータスに加えられた変更は、有効になりません。
5071025	Instant Messenger で新規の連絡先グループを作成し、そのグループに連絡先を割り当てないで、ログアウトして再度ログインすると、この連絡先グループが連絡先一覧に表示されなくなります。
	回避方法
	Instant Messenger からログアウトする前に、連絡先グループに連絡先を追加します。
5076386	エンドユーザーが有効なプライバシープロファイルを削除した場合、 Instant Messenger クライアントではそのプライバシープロファイルが削除されたことを表示しているにもかかわらず、サーバーでは削除された有効なプライバシープロファイルの適用を継続します。
	回避方法
	エンドユーザーが有効なプライバシープロファイルを削除すると、現在 Instant Messenger クライアントでは、自動的に「すべてのユーザーに表示」プライバシープロファイルが有効にされるようになっています。エンドユーザーは、別のプライバシーリストを有効にして、「すべてのユーザーに表示」プロファイルをもう一度有効にする必要があります。
5082579	ネットワーク接続が切断された後も、ユーザーステータスがオンラインのままになります。
5087303	エンドユーザーが最後に正常にログインしたサーバーが、 Instant Messenger の「ログイン」ダイアログボックスに表示されない場合があります。この動作はユーザー名の動作と矛盾します。ユーザー名の場合は、最後に正常に使用されたユーザー名が、「ログイン」ダイアログボックスに表示されます。
	回避方法
	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="429 1459 1129 1482">1. 「ログイン」ダイアログボックスで、「詳細」をクリックします。 <li data-bbox="429 1503 1215 1525">2. 「サーバー」ドロップダウンリストから該当するサーバーを選択します。

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
5088422	Instant Messenger では、無効な証明書に同意する危険性のあるユーザーに警告しません。
5090649	新規ユーザーを、「パスワード」フィールドを要求しないサーバーに登録できません。これは、サーバーでは「パスワード」フィールドを必須フィールドと見なし、Instant Messenger では必須フィールドと見なしているためです。
5097091 *	<p>空でない連絡先一覧からフォルダを削除すると、そのフォルダ内の連絡先も削除されます。ところが、削除することにより、そのフォルダ内にあったすべての連絡先の連絡先一覧から、ユーザー自身も削除されてしまいます。たとえば、次の状況が存在するとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー A の連絡先一覧内に、「ABC」というフォルダがあります。 • この ABC フォルダには、連絡先のユーザー B が含まれています。 • ユーザー B の連絡先一覧にはユーザー A が含まれています。 • ユーザー A が ABC フォルダを削除します。 <p>次のことが発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー A のフォルダ ABC が削除され、ユーザー B の連絡先がユーザー A の連絡先一覧から削除されます。 • ユーザー A が、ユーザー B の連絡先一覧から削除されます。 <p>回避方法</p> <p>ユーザー B は、ユーザー A を連絡先として、手動でもう一度追加する必要があります。</p>
5097769, 6186250, 6199158 *	Gaim クライアントからの複数行のメッセージで、行間で改行されるなどのフォーマットエラーが発生します。
5099172, 6187165 *	<p>Web ブラウザが、オンラインヘルプまたはチャットメッセージで送られた URL をロードしない場合があります。</p> <p>回避方法</p> <p>チャットメッセージで送られた URL については、その URL をコピーして Web ブラウザに貼り付けます。オンラインヘルプについては、Web ブラウザで Instant Messenger のホームページを起動して、そのページにあるオンラインヘルプのリンクをクリックします。</p>
5100229 *	ステータスバーにはオンラインのアイコンが表示されているのに、ステータスがアイドルとして表示されます。

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
5102072 *	<p>デフォルトでは、<code>iim.conf</code> に Calendar エージェントのパラメータは記載されていません。ところが、呼び出されると、<code>imadmin</code> は設定ファイル内で <code>iim_agent.enable</code> パラメータを探します。見つからない場合は、<code>imadmin</code> は、パラメータは <code>true</code> (有効) に設定されているものとして処理を継続します。その結果、<code>iim.conf</code> ファイルから削除していても、ウォッチドッグが定期的に Calendar エージェントを開始します。</p> <p>回避方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <code>iim.conf</code> に次の行を追加します。 <code>iim_agent.enable = "false"</code> Instant Messaging サーバーを再起動します。
5102297 *	<p>ユーザーがステータスを「表示しない」に変更して、その後 Instant Messenger を再起動すると、連絡先一覧とステータスバー間で Presence ステータスの不一致が発生します。</p>
5104840	<p>ユーザーが「設定」ダイアログボックスの「プライバシー」タブで行った変更は、「了解」をクリックしたときではなく、変更が行われたときに保存されます。このため、このタブで変更を行った後で「取消し」をクリックしても、変更が保存されます。</p>
6173592 *	<p>JDK 1.4.2 を動作させている Microsoft Windows マシンで、クライアントが稼働している時にネットワーク接続が切断された場合、クライアントの Java プロセスが突然、システムの CPU 使用率の 90% 以上を消費する場合があります。これは、Instant Messaging サーバーが停止している場合には発生しません。発生するのは、ネットワーク接続が切断された場合のみです。</p> <p>回避方法</p>
6176822 *	<p>Microsoft Windows を動作させているクライアントシステムを JDK 5.0 にアップグレードします。</p>
6176822 *	<p>20K バイト以上の添付ファイルを Instant Messenger で送信すると、Java のメモリ不足エラーを起こすことがあります。このエラーが発生すると、添付ファイルは送信されません。</p>
6178483 *	<p>Instant Messenger によるチャットウィンドウをロード時に、最初のチャットメッセージの一部が失われることがあります。</p>
6182662	<p>Instant Messenger のこのリリースでは新しい顔文字の一部が、オンラインヘルプに含まれていません。これらの顔文字の説明については、表 3 を参照してください。</p>
6183638	<p>オンラインヘルプに、「こちらのステータスを表示できるユーザー」ダイアログボックスの説明がありません。このダイアログボックスに関連する説明と手順については、「「こちらのステータスを表示できるユーザー」ダイアログボックス」を参照してください。</p>

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
6185017 *	<p>ユーザーが既存の名前を使用して会議室を作成しようとする、ユーザーは、会議名はすでに使用中です、という警告を受けずに、既存の会議室に追加されます。</p> <p>回避方法</p> <p>会議室を退出して、新しい会議室用の新しい名前を選択します。</p>
6186465	<p>Instant Messenger でテキストをカット&ペーストすると、余計なキャリッジリターンが追加される場合があります。</p>
6189148	<p>Sun Java™ System Access Manager を Instant Messaging サーバーとは別のホストにインストールする場合、configure ユーティリティを実行した後に、imServices ファイルを Instant Messaging サーバーホストから Access Manager ホストへ手動でコピーする必要があります。</p> <p>これを行うには次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Instant Messaging サーバーホストで imService_*.properties ファイルを検索します。デフォルトでは、これらのファイルは、Solaris では /opt/SUNWiim/lib/ に、Linux では /opt/sun/im/lib/ に存在します。 2. このファイルを Sun Java™ System Access Manager ホストの locale ディレクトリにコピーします。デフォルトでは、このディレクトリは、Solaris では /opt/SUNWam/locale に、Linux では /opt/sun/identity/locale に存在します。
6189338	<p>英語以外のロケール、たとえば日本語では、会議室へのアクセス権を READ に変更することができません。代わりに、保存すると、アクセス権が NONE に変更されます。</p>
6189343 *	<p>会議室名にマルチバイト文字が含まれる場合は、会議室にメッセージを送ることができません。</p> <p>回避方法</p> <p>会議室名には英語を使用します。</p>
6190366	<p>ユーザーを連絡先一覧に追加すると、「連絡先」タブではなく「会議室」タブが、Instant Messenger クライアントのメインウィンドウにフォーカスされます。</p>
6191122	<p>ネットワーク接続が切断された場合、Instant Messenger クライアントがハングアップすることがあります。ハングアップした場合は、次のようにして Instant Messenger Java プロセスを終了する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris: "java" の ps(1) および grep(1) を使用します。 • Microsoft Windows: タスクマネージャを使用して、javaw.exe を検索します。 • Mac OS: 「アプリケーションの強制終了」ダイアログボックスを使用します。

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
6193192 *	<p>マルチバイト文字を含む会議室名を検索できません。</p> <p>回避方法</p> <p>会議室名には英語を使用します。</p>
6194347 *	<p>Instant Messenger で表示されるウィンドウのサイズが小さすぎるため、MAC OSX では「入力」ブロックがウィンドウの最下部より下になります。</p>
6195180	<p>「ニュース」ウィンドウに件名と送信者が表示されない場合があります。</p>
6196432 *	<p>「サービスを追加」ダイアログボックスを無効にすると、例外がスローされて、ほかの Instant Messenger 機能が正常に機能しなくなる場合があります。</p>
6196985 *	<p>デフォルトでは、チャットウィンドウから複数行のメッセージを送信できません。</p> <p>回避方法</p> <p>メッセージを送信する前に、Enter キーではなく、Ctrl+Enter キーを押して、2 行目を入力します。</p>
6197017 *	<p>Calendar サーバーを再起動すると、Calendar エージェントがメモリー不足エラーを起こすことがあります。</p>
6198035 *	<p>選択した受信者が「連絡先を追加」一覧に表示されません。</p>
6198525	<p>会議室とニュースチャンネルでは、特別なアクセス権を付与する前に、ユーザーに対してデフォルトのアクセス権を設定する必要があります。</p>
6199568 *	<p>マルチプレクサを停止した場合、すべてのクライアント接続が正常に切断されません。そのため、接続が切断されているにもかかわらず、Instant Messenger ではステータスがオンラインと表示されるなど、Presence に不整合が生じる可能性があります。</p>
6199711 *	<p>マルチバイト 1 文字のメッセージを送信できません。</p> <p>回避方法</p> <p>一度に複数のマルチバイト文字を送信します。</p>
6199743 *	<p>チャットウィンドウで日本語の文字を入力して、その文字をもう一度チャットウィンドウにコピー&ペーストすると、チャットウィンドウにその未確定文字列が表示されません。</p> <p>回避方法</p> <p>チャットまたは会議室のウィンドウを閉じて、もう一度入力します。</p>
6199908 *	<p>マルチバイト文字を使用する一部のロケールでは、Sun Java™ System Portal Server に配備した Java Web Start を使用して、Instant Messenger を起動することができません。</p>

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
6200051	Instant Messenger をログアウトして、再度ログインすると、連絡先一覧のユーザーについての Presence 情報の一部が失われる場合があります。これらのユーザーについての Presence 情報は、サーバーからクライアントが Presence の更新を受け取る際に更新される必要があります。これにはしばらく時間がかかります。
6201305 *	ユーザーが最初に Instant Messenger を使用して別のユーザーにファイルを送信すると、ファイルが失われます。 回避方法 ファイルを再送してください。
6202608 *	IM 6 2004Q2 から IM 7 2005Q1 に移行すると、連絡先一覧の情報の一部が失われます。
6203957 *	Linux では、openLDAP クライアント RPM がインストールされていない場合、ldapmodify を実行しようとする、imServiceConfigure が失敗します。
6204947 *	別のユーザーを会議に招待すると、「会議室」ウィンドウにいくつかのタブが表示されることがあります。
6205657	すでに会議室に参加しているユーザーに対してアクセス権を変更しても、その変更は、「会議室」ウィンドウを再起動するまで有効になりません。 回避方法 「会議室」ウィンドウを閉じて再起動し、アクセス権を更新します。
6206530	フランス語にローカライズされたリソースファイルを使用している場合、次のリソースファイルのアポストロフィにエスケープ文字を追加する必要があります。 <code>codebase/im/fr/index.html</code> <code>codebase/im/fr_FR/index.html</code> 次の行の <code>l'aide</code> を <code>l\''aide</code> に変更します。 <code>onmouseover="window.status='Lancer Messenger r l'aide du plug-in Java'; return true"</code> <code>onfocus="window.status='Lancer Messenger r l'aide du plug-in Java'; return true"</code> <code>onmouseover="window.status='Lancer les rubriques de l'aide en ligne'; return true"</code>
6206957 *	連絡先一覧の連絡先の名前を変更し、次に元の名前を使用してそのユーザーを連絡先一覧の別のグループに追加すると、変更した名前が失われます。

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
6208732 *	Sun Java™ System Access Manager の配備では、アップグレード後に、 <code>amconfig.properties</code> が <code>/etc/opt/SUNWam</code> に見つからないためアップグレードできなかったという設定エラーが表示される場合があります。このディレクトリに <code>amconfig.properties</code> ファイルは存在しませんが、アップグレードは期待どおりに完了します。
6211624	日本語で <code>configure</code> ユーティリティの実行中に、画面要素のタイトルの一部が表示されません。 回避方法 画面を拡大してすべてのテキストが表示されるようにします。
6212843 *	マルチバイト文字を含む電子メールのアラートが読めないことがあります。件名は読めますが、メッセージの本文は読めません。
6213223	メッセージをニュースチャンネルに投稿して、投稿したメッセージを表示せずにログアウトすると、メッセージが失われたように見えます。メッセージは存在しており、表示できないだけです。 回避方法 <code>Instant Messenger</code> からログアウトする前に、ニュースチャンネルに投稿したメッセージをすべて表示するか、そのニュースチャンネルを登録解除して、もう一度登録します。
6213365	アップグレード後に <code>Instant Messaging</code> サービスを起動できません。 回避方法 アップグレードを行う前に、 <code>SUNWiimdv</code> パッケージを削除します。
6215113 *	投稿された新規メッセージがニュースチャンネル管理者に通知されません。

表 4 既知の問題および制限 (続き)

ID	概要
6215222 *	<p>LDAP ディレクトリでユーザーエントリに加えた変更が、キャッシュを再確認するまで、Instant Messaging に反映されません。デフォルトでは、キャッシュの再確認は 10 分ごと、または Instant Messaging サーバーが起動するたびに発生します。</p> <p>回避方法</p> <p>Instant Messaging サーバーを再起動します。</p>
6217627	<p>必要メモリに満たないマシンでは、configure ユーティリティは Instant Messaging の設定を完了しますが、例外がスローされる場合があります。</p> <p>回避方法</p> <p>configure ユーティリティをインストールまたは実行する前に、システムが最小限のメモリ要件を満たしていることを確認してください。それでもこの問題が発生する場合は、次を実行します。</p> <p>Solaris: /opt/SUNWiim/lib/imServiceConfigure</p> <p>Linux: /opt/sun/im/lib/imServiceConfigure</p>

* は、このリリース後まもなくパッチで解決される問題を示しています。今後提供されるパッチ一覧については、このリリースノートの始めの部分を参照してください。

再配布可能なファイル

Sun Java™ System Instant Messaging 7 2005Q1 には、再配布可能なファイルは含まれていません。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java™ System Instant Messaging で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートにご連絡ください。

- 次の Sun ソフトウェアサポートのサービスオンライン
<http://www.sun.com/supporttraining>

このサイトには、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムやサポート連絡先の電話番号へのリンクがあります。

- 保守契約先に電話連絡してください。

問題を解決する上で最善のサポートが受けられるようにするため、サポートに連絡するときは次の情報を用意してください。

- 問題が発生した場所および操作に与える影響を含む、問題の説明
- マシンの種類、オペレーティングシステムのバージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題が発生するまでに使用していた詳細な手順または方法
- エラーログまたはコアダンプ

コメントの送り先

Sun では、マニュアルの品質向上のために、お客様からのコメントや提案をお待ちしています。

コメントをお送りいただく際は、<http://docs.sun.com> にアクセスして、「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームでは、マニュアルのタイトルと Part No. をご記入ください。Part No. はマニュアルのタイトルページまたは上部に記載された 7 桁または 9 桁の番号です。たとえば、このリリースノートのタイトルは、Sun Java™ System Instant Messaging 7 2005Q1 リリースノートで、Part No. は 819-1483 です。

その他の情報

次の Web サイトには、役立つ Sun Java™ System 情報があります。

- Instant Messaging のマニュアル
http://docs.sun.com/coll/InstantMessaging_05q1
- Sun Java™ System マニュアル
<http://docs.sun.com/prod/java.sys>
- Sun Java™ System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/sjsservicessuite.html>
- Sun Java™ System ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java™ System ソフトウェアサポートサービスおよび Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java™ System 開発者向け情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://developers.sun.com/prodtech/support>
- Sun ソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、このマニュアルで説明されている製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。これらの知的所有権には <http://www.sun.com/patents> に示される 1 つまたは複数の米国の特許、および米国および他の各国における 1 つまたは複数の特許または特許申請が含まれますが、これに限定されません。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンス基底に従って使用されており、米国および他の各国における SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。